

## 軍用地が83%を占める嘉手納町で、商店街マネジメントの計画策定

### 嘉 手 納 町 商 工 会

機関名	嘉手納町商工会			
所在地	沖縄県嘉手納町字嘉手納259番地			
電話番号	098-956-2810			
地域概要	(1)管内人口	1万3千人	(2)管内商店街数	3商店街
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数	3商店街 (内法人格 1協同組合)	(2)会員数	70商店
	(3)空店舗率	- %	(4)大型店空き店舗数	2店
商店街の種類	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街			

#### 【事業名と実施年度】

平成14年度 マネジメント対策事業

- ・委員会開催、報告書作成
- ・商店街マネジメント計画策定のための調査研究
- ・商店街マネージャーの派遣

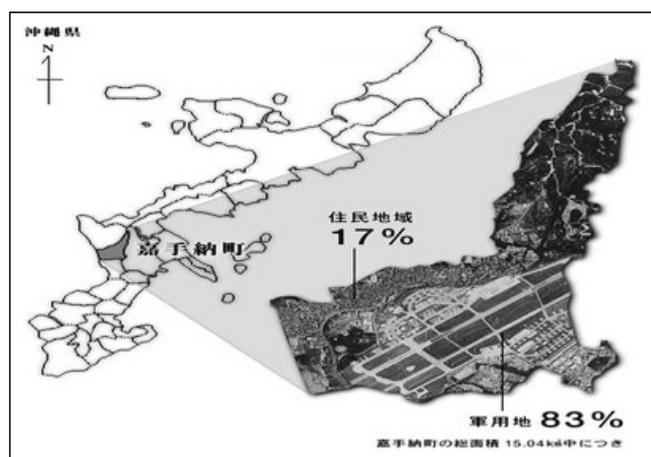
総事業費

3,008千円

#### 【事業実施内容】

##### 1. 背景

嘉手納町は、沖縄県の中部に位置し、東支那海に面する海岸線沿にあって、那覇より北へ23kmの地点にある。町総面積は15.04km<sup>2</sup>南北に細長い逆L字型で83%が軍用地、住民地域は17%と極めて狭少である。第三次産業のウェイトが高いが、卸・小売商業が停滞している状況の中、商店街の活性化に向けたマネジメント計画策定に取り組むにあたり、商店街マネージャーを派遣して調査研究を行うこととなった。



嘉手納町の位置

##### 2. 事業内容

事業の対象 : 嘉手納町の商業及び中心市街地商店街の事業者

事業実施期間: 平成14年7月15日～平成15年3月31日

##### (1) 商店街マネジメント計画策定のための調査研究

経営環境を分析して問題点を把握した上で、解決策を検討・実行することが重要であると考え、まず、予備調査を行った。

1) 商店街の現況調査

①新町商店街

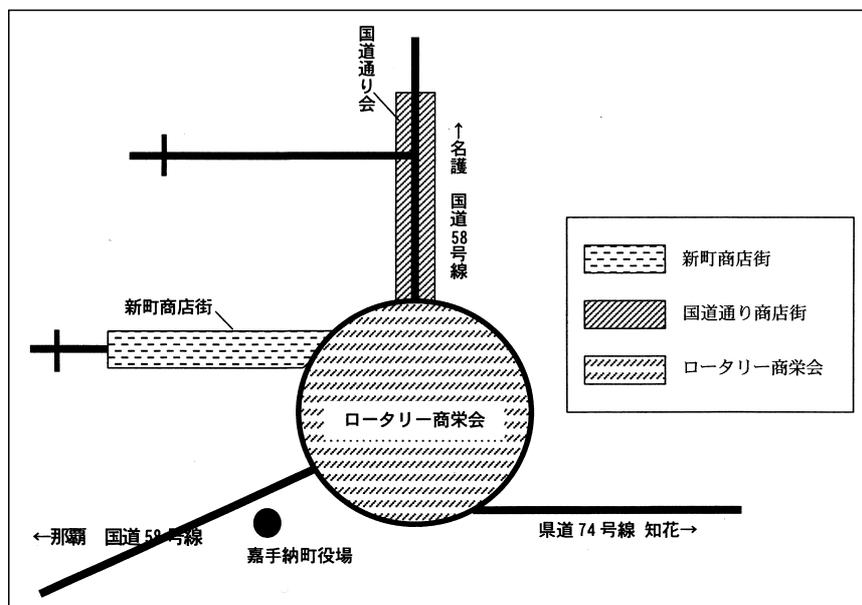
- ・店舗数70店（うち組合員数52）、空き店舗13店
- ・業種構成は、小売業31店、サービス業17店、社交業12店、飲食業7店、建設業2店、その他1店
- ・国道58号線との交差点を基点とする延長約300mの直線状の商店街。食料品・日用品・文化品等の店舗が立地し、中心商店街として位置付けられる。平成11年道路改良が行われ、カラー舗装化された。

②国道通り商店街

- ・店舗数56店（うち組合員数42）、空き店舗9店
- ・業種構成は、小売業25店、サービス業16店、飲食業4店、建設業3店、社交業1店、情報産業1店、その他6店

③ロータリー商栄会

- ・店舗数34店（うち組合員数27）、空き店舗なし
- ・嘉手納ロータリー内部に位置し、住宅や事業所も多く「通り」の形態とはなっていない。現在推進中の再開発事業の対象地区でもあることから、商店は点在している。



嘉手納町中心市街地内の3商店街の位置

2) 個店の現状把握調査

①経営者ヒアリング調査

期間：平成14年10月16日～23日

調査対象：新町商店街内の10店

訪問者：商店街マネージャー

質問項目：嘉手納町の商業力に対する認識、開発の進め方に対する不安・不満、商工会への期待、行政への依頼、商店街がやるべきこと

②経営者アンケート調査

期間：平成14年10月17日～11月1日

## 嘉手納町商工会

調査対象：中心市街地の3商店街

調査方法：商工会が配布、商店街役員が個別回収

回収状況：配布数120件、回収数47件。

質問項目：属性、最近の経営状況、個店・商店街の問題点、再開発に関して、経営者意識

### ③消費者アンケート調査

期間：平成14年10月17日～11月1日

調査対象：中心市街地の3商店街の来街者

調査方法：各店舗にアンケート配布、数日後に回収する留置法

回収状況：184件

質問項目：買物動向及びニーズに関する項目

### (2) 商店街マネージャーの派遣

全国の商店街で活性化の最大のネックとなっている、マネジメントする人材の不足に対応し、商店街にマネージャーを派遣させ、あわせて各種の活性化事業を一体的、継続的に実施できるように支援することとなった。

商店街マネージャーを派遣し、年間24回の指導を行った。従来の商店街の組織体制を見直し検討、青年部の育成、女性部の設立（案）や事業活動の指導を行った。

また、個店指導により業種構成の見直しや商店街として独自の方向性を位置づけ、さらに、販促、集客活動の具体的事業の検討や商店街における課題・商店街基本構想の方向性を検討した。

## 【効 果】

調査によって、次のような現状の課題を把握できた。

### (1) 商業ビジョンの不明確さ

嘉手納町においては、産業政策の中での商業の位置づけが不明確となっており、従って、環境変化が激しく、近隣の大型店動向、地域間競争が激化する中で、町内の商業者は戸惑い、不安感をもって経営を続けている。（タウンセンターの開発動向との関連性を見出せずにいるのが現状である）

### (2) 商業力の低下

近隣市町村への大型店舗進出や商業集積の出現状況等環境対応を図っていかなければならない中で、嘉手納町は旧態依然とした商業を展開しており、相対的に商業力が低下し、顧客・購買流出が大きくなってきている。

### (3) 商店街・組合員等危機意識の弱さ

商業環境が大きく変わり、商業ビジネスのあり方も変わってきているが、嘉手納町内の商店街組合員は周辺環境の変化は気にしているものの、自ら変化に対応し商店街の活性化へ取り組もうという意識が低い。

### (4) 後継者の不足

全国的動向であるが、特に嘉手納町においては、中心市街地・商店街の魅力の低下に伴い、また商業者が高齢化し、後継者育成が急務になってきているが、該当者が不足しているのが

現状である。

(5) 行政と商工会・商業者の連携不足

行政の情報開示不足と商業者の行政頼りの姿勢が強い中で、両者の歩み寄りが少なく、商工会としても調整に苦慮しているのが現状である。

商業を地域の産業として捉え、地域活性化の有効手段と考えた時に、行政としてはもっと真剣に産業政策の中での商業の位置づけを明確にし、今後の方向性を商業者と一体となって導き出すことが求められる。

商業者としても、自身の死活問題に関わることであると同時に、地域づくりの核となる事業・産業に携わっている自覚を持ち、もっと積極的に行政・商工会と連携を図る必要がある。

【課題・反省点】

商店街基本構想の方向性と課題として以下の点がある。

(1) 嘉手納町の将来ビジョンに即した商店街

現在、嘉手納町においては商業ビジョンが策定されておらず、商店街としてどのような方向性で開発していけばよいか不明な状況になっている。従って、今後、当町が明確なビジョンのもとに各個店がいきいきとした商店街づくりが必要である。

- ①住民が安心して買物できるような街路・駐車場の整備
- ②消費者ニーズにあった店舗開発、品揃え、サービスの提供の他ライフスタイルの提案
- ③嘉手納の伝統・文化を担い、その伝承、さらに創造し、新たな「街づくり」の担い手となるような商店街開発

(2) バリアフリーを徹底した商店街

安心して買物が出来、あれあいの場の確保されたバリアフリーを徹底した商店街

- ①コミュニティ広場を核としたふれあいの広がり
- ②業種ミックスの整備
- ③商店街組織の強化
- ④魅力的な個店づくり
- ⑤個店の経営力強化

【教訓】

商店街へ専門家（商店街マネージャー）を派遣し個店の指導強化を実施したが、24回しか派遣をすることができなかった。できれば、長期で設置をすることが望ましい。

【関連URL】

嘉手納町商工会 <http://www.kadena.or.jp/>